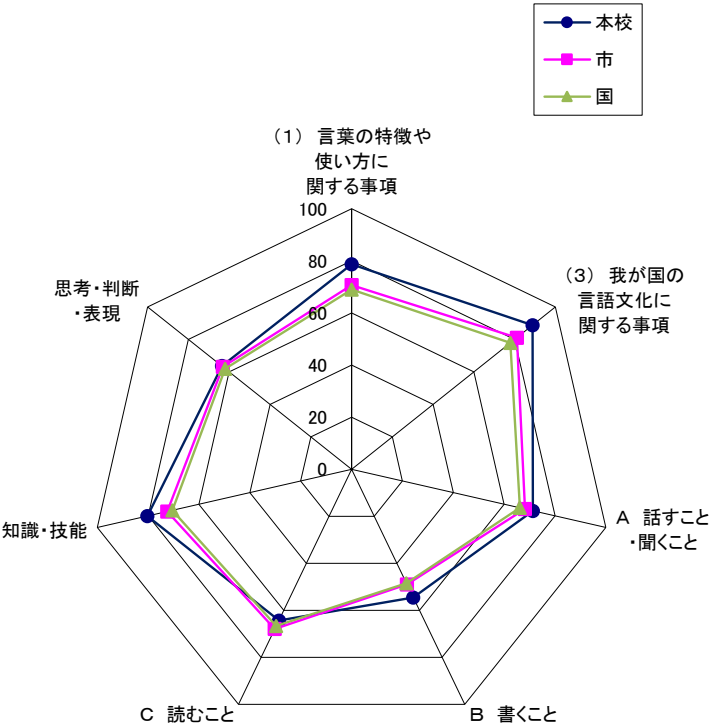


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.7	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	88.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.3	68.2	66.2
	B 書くこと	54.5	48.9	48.5
	C 読むこと	64.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	80.3	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.6	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○言葉の特徴や使い方にに関する事項では、本校の平均正答率は78.7%で、全国の平均よりも9.7ポイント上回り、すべての設問において、全国の平均を上回っている。 ○「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」設問では、本校の正答率は90%を超え、全国の平均よりも5.5ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、新しく学習する文字はもちろんのこと、同音異義語や同訓異字などに着目させ、文脈の中で適切に理解させるようにしたい。 ・授業や家庭学習の中で国語辞典や漢字辞典の活用を促し、意味や文字の成り立ちなどを調べることによって、言葉に対する関心を高め、語彙を増やしていく場を設定する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項では、本校の平均正答率は、88.8%で、全国の平均よりも10.9ポイント上回っている。	・詩の音韻を意識させて音読したり、古文や漢文に親しみ日本語古来の言葉のリズムを感じ取らせたりしながら、音声言語としての言葉の学習を充実させるように今後も学習指導を工夫していく。 ・社会の日本の歴史の学習との関連を図り、文字(漢字・片仮名・平仮名)の成り立ちや、文学史についての知識を広められるように教科横断的な指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの本校の正答率は、71.3%で、全国の平均よりも5.1ポイント上回っている。 ○「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い自分の考えをまとめる」設問では、記述式での正答率が56.2%で、全国の平均を8.5ポイント上回った。	・話すことにおいては、既習の「適切な声の大きさや速さ・間のとり方・発音や抑揚、相手に向ける視線」などとともに、伝える目的や伝える場、相手を想定し、それらに応じた話し方ができるよう、目的意識をもたせて話をする指導を充実させていきたい。 ・聞くことにおいては、内容の要点をつかんで聞くことや、会話における相づちや返答の仕方の工夫など、引き続き、より豊かな聞き方の例を示しながら指導していきたい。
B 書くこと	○書くことの本校の正答率は、54.5%で、全国の平均よりも、5.8ポイント上回っている。 ○「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問の、本校の正答率は49.4%で、全国の平均を11.7ポイント上回っている。	・字数、制限時間、目的や内容などの与えられた条件を満たして書く学習を取り入れ、回を重ねて指導する。 ・自分の考えや感想を文章で伝える意欲が高まるような学習の場を設定し、書くことへの抵抗を少なくし、友達と読み合うことによって学び合いの楽しさを味わえるようにしたい。 ・文法や表記上のきまりを復習させ、正しく文章で表現する力の定着を図る。
C 読むこと	●読むことの本校の正答率は、64.3%で、全国の平均を2.3ポイントとわずかに下回っている。 ●「表現の効果を考える」設問の正答率は、50.6%で、全国の平均を8.6ポイント下回っている。 ○「登場人物の相互関係について描写を基に捉える」設問では77.5%で全国を6.9ポイント上回った。	・文学的文章の読解においては、情景や登場人物の心情を捉えるための手がかりとなる描写や伏線について指導し、読む楽しさを味わいながら学ぶことができる授業の工夫に努めたい。 ・表現技法については、教材ごとに指導し、読む側としてそれらの効果に気付いたり、書く側としてそれらを使ったりできるようにさせたい。